

## クラウド等を活用した地域 ICT 投資の促進に関する検討会（第 1 回）

### 議事要旨

#### 1. 日時

平成 27 年 1 月 26 日（月） 10:00～11:45

#### 2. 場所

総務省 8 階 第 1 特別会議室

#### 3. 出席者

##### （1）構成員

村井座長、谷川座長代理、今井構成員、宇陀構成員、大塚構成員、織田構成員、小田構成員、桑原構成員、東海林構成員、鈴木構成員、敦賀構成員、手塚構成員、中西構成員、野水構成員、前田構成員、森下構成員、横山構成員、吉崎構成員、渡辺構成員

##### （2）オブザーバ

内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室 市川参事官

##### （3）総務省

西銘総務副大臣、長谷川総務大臣政務官、太田総務大臣補佐官、桜井総務審議官、鈴木情報通信国際戦略局長、南政策統括官、巻口情報通信国際戦略局参事官、小笠原情報通信政策課長、岡崎情報流通振興課長、井幡情報流通行政局企画官、島田融合戦略企画官

#### 4. 議事

##### （1）開催要綱等について

##### （2）クラウド等を活用した地域 ICT 投資の促進に関して

##### （3）発表

##### （4）意見交換

#### 5. 議事概要

会議の中で、西銘副大臣、長谷川大臣政務官、太田大臣補佐官より挨拶があった。主な内容は以下のとおり。

##### 【西銘副大臣】

- 6～7年くらい前に、自民党の税調で中・小規模企業に ICT をどのように組み込むかという議論をしていた。それから総務部会長を担当し、現在は総務副大

臣を担当しているが、「あの時からあまり進展がないのかな」という思いがある。

- 具体的な実例等を踏まえ、地域が良くなるように、あるいは地域が良くなることで我が国の経済全体を引っ張っていけるようにするために、何ができるかを本検討会で検討したい。

【長谷川大臣政務官】

- 地元の札幌にある商店街の顧客では、アジア系の旅行者が多く、日本人か旅行者かどちらをターゲットにするかによって売り方も違っている。
- ICT を活用することを含めて、商品販売に関わる情報を取得し、どこで売上があがっているのかを把握できているかが大切だ。情報を把握できているところと、そうでないところとの間で売上に差が生まれている。
- ICT は観光や飲食には導入しやすいと思うが、これからは農業、製造業、建設業といった分野に ICT を導入することが大切である。それぞれの分野における利活用モデル、「フロントランナー」をしっかりと作っていかないといけない。

【太田大臣補佐官】

- どのように成果を出すのかについて、様々な論点があると思う。突き詰めると、経営課題に刺さるかどうかだ。経営課題に刺されれば、「何のためにやるんですか」、「費用対効果はあるんですか」という疑問に対する答えになる。そのような観点に焦点を当てたらどうか。
- 経営課題を突き詰めると、まずは人材活用に課題があると思う。パートの戦力化や、若手にどのようにスキルを付けていくか、高齢者をどのように活用するのかという課題だ。
- もう一つの課題は、経営課題に突き刺さる瞬間をどのようにつくるかである。様々な知恵、モデルは既に存在しているので、それをどのように実施していくかが大切だ。What よりも How を念頭におくべきだ。
- 経営課題に突き刺さるタイミングを計るという点においては、地銀を活用すると良いのではないか。地銀の仕事のうちの一つは、事業承継である。事業承継がどのようなタイミングで行われるかといった情報を持っているはずなので、それを活かして検討できれば良い。

(1) 開催要項等について

事務局より資料 1、資料 2、資料 3 について説明が行われた。

(2) クラウド等を活用した地域 ICT 投資の促進に関して

事務局より資料 4 について説明が行われた。

(3) 発表

①株式会社ツルガ発表

敦賀構成員より資料5について説明が行われた。

②大創株式会社発表

大塚構成員より資料6について説明が行われた。

③株式会社加賀屋発表

小田構成員より資料7について説明が行われた。

(4) 意見交換

出席者の主な発言は以下のとおり。

【今井構成員】

- テレコムサービス協会とは、主にネットワーク系のSIerやISP等の企業で構成されている団体である。全国に11支部があるので、地方の会員等の声を本検討会の中で御紹介したい。
- 地方のSIerがクラウド化という動きに乗れるかどうか、今後の重要課題であると考えます。
- 本日発表された方のように、社長自らがICT化を進めるということは難しく、全ての企業でできることではない。地方・中小企業のICT化を支援できるような枠組みができると良い。

【宇陀構成員】

- 中小企業のICT投資が進まない理由の一つは、ICT投資をしてももうからないからだ。もうかるのならば、ICT投資の内容が分からなくても投資を進めるはずだ。ICTベンダー企業は、顧客企業がもうかる仕組みを構築できるようサポートし続けることが重要である。ICT部門に対してのみではなく、経営者を直接サポートし、成果をあげるところまで行うことが重要だ。
- ICT導入による業務の見える化は重要だ。見えれば、何をしたら良いかが分かる。見える化はICT投資のきっかけになると考える。
- ワイルドアイデアだが、法人IDに関しては、Facebookの「いいね！」やヤフオク！の出品者評価のように、第三者からの評価が行える仕組みがあると利用が促進されるのではないかと考える。

【織田構成員】

- Officeを中心とした弊社の製品は、クラウドとの関係を強化しており、また様々

な端末から利用可能である。利活用の観点から、様々な可能性が広まってきているので、そういった内容について御紹介していきたい。

- 業務を簡便な ICT によって効率化していくことに加えて、テレワークやコラボレーションといった、いつでもどこでもコミュニケーションが取れて、社員が活躍できる仕組みが重要になると思う。弊社のワークスタイル変革に向けた取組についても御紹介したい。

#### 【桑原構成員】

- 中小企業や、小規模事業者の経営者ほど、少しでも早く ICT 導入による成功体験を得てもらうことが、導入を進めていくためには重要だ。「ICT 導入を少しずつ進め、小さな成功を得る」、というサイクルを繰り返すことが大切である。
- 広島県庁では業務改革の一環として、ワークスタイル変革を進めている。変革を県庁内で進める上で、全庁一気に行うのではなく、一番早く効果が見込める部署を調査し、研究した上で先行部署を決定した。
- 広島県下の中小企業を振興するために、県庁として何ができるかを模索している。商工労働局を中心に、県下企業同士のビジネスマッチングを進め、企業間のビジネスネットワークを構築しようとしている。

#### 【谷川座長代理】

- 企業が ICT を使いこなせていないという議論は昔からある。実際に現場を視察すると、電話と FAX のみでも困らないという声が多い。ICT を使ったら便利であるということが伝わっておらず、これが最大の障壁である。できるだけ多くの方に、便利な道具があることを知っていただくことが大切だ。
- クラウドを活用している企業と、活用していない企業について調査したところ、経営感覚に大きな差があることが分かった。
- 地方・中小企業では人手不足が深刻になりつつある。中小企業における ICT を議論する際に、効率的な人員配置、業務の見える化等を論点に議論し、業務効率が上がるともうかるというサイクルを示せると良い。そのような議論をこの検討会で行っていきたい。

#### 【東海林構成員】

- 日本には 400 万社以上の中小企業があるが、それらに営業をすることが難しい。そこで、弊社は 4 年前に「KDDI まとめてオフィス」という中小企業様向け専門の営業会社を設立した。コンセプトは、「あなたの会社の IT 担当になります」である。中小企業では社長またはそれに準ずる方が意思決定をするため、意思決定に要する時間が少ないというメリットがある一方で、ICT に関する情報が不足している。弊社

のサービスでは、その不足している情報をまとめて提供しようとしている。

- SNS やクラウドはハードルが高いかもしれないが、固定電話や携帯電話、PBX を上手く組み合わせることも、コスト削減につながる。ただし、その情報がお客様には伝わっていないという経験が弊社にはあるので、それを活かして、本検討会では議論したい。

#### 【鈴木構成員】

- 地方の ICT ベンダー企業として、地方の実情をこの検討会で御紹介したい。
- 伝統的な SIer や ICT ベンダー企業は、効率性あるいは利益の面から、大手中心の取引になりがちである。中小企業を対象とした取引について、どのように取り組んでいくのかについて、本検討会で発表したい。
- クラウドやスマートデバイスにより、ICT を取り巻く環境は変わった。インテックでは、大手企業のみではなく、中小企業、あるいはコミュニティに対してどのようなサービスを提供するかということも検討している。そのことについても本検討会で議論したい。

#### 【手塚構成員】

- 日本は人口減少が進んでおり、その減少分をカバーするために、ICT をいかに活用するかが重要だ。ICT によって一人当たりの生産性をいかに引き上げるか、特にホワイトカラー人材の生産性向上が重要である。
- 地方の中小企業がいかにクラウドサービスを活用していくかが重要だ。クラウドサービスによって、東京にある企業と同等以上の経営が可能になる。
- クラウドサービスに移行することは、一元化できることから、情報セキュリティの観点からも望ましい。
- クラウドサービス導入をどのように進めるかが課題であり、その点について本検討会で議論したい。

#### 【中西構成員】

- 経営情報学関係の研究をしているので、経営と情報を繋ぐことによって何ができるのかということを考えていきたい。
- 例えば地域の反対は「グローバル」である。加賀屋様の事例では、インバウンドでの観光客とのコミュニケーションを ICT によって円滑に行い、自社の顧客にすることができると論点だ。
- 経営・ビジネスの視点から言えば、投資に対して、どのような効果があるかということを確認していかなければいけない。

#### 【野水構成員】

- クラウドには初期コストが発生しないというメリットがある。
- ICT 投資が「電算化」というところに終始してしまっていることに問題がある。
- 「ICT 投資を増やしたら良くなる」という議論の方向性には疑問がある。ICT 投資はある程度のスケール、人数のいるところに行うことで効果がでる。ところが情報共有のための投資を、顔が見える範囲のみに行ったところで大きな効果は生まれないため、結局顧客が効果を感じられないという結果を生んでしまう。
- 今回の検討会で重要であることは、「地域」という範囲があることだ。中小企業が集まることで、一つの地域になる。その地域単位で投資を行えることが、クラウドのメリットだ。
- 愛媛県に、赤字が出ているので市が閉鎖しようとしていた診療所がある。この診療所を他の地域の診療所と結び、ICT 投資を一体として行ったところ、4ヶ月で黒字が出た。このようにスケールメリットを出せるような ICT の組み方をすれば、投資の効果が生まれるのではないかと思う。
- ワークスタイル変革については、サイボウズ社では突然別の地域で勤務することになったとしても業務遂行が可能である。このような体制を含めて、ICT に投資することによる効果について検討していきたい。

#### 【前田構成員】

- ICT 人材の育成については、技術面のサポートのみではなく、モチベーションアップをいかに行うかの視点も重要である。
- 2013 年に広島県と広島市で「IT 融合フォーラム」というものを立ち上げた。このフォーラムでは、セミナーや研究会を開催し、ICT と別な分野との組み合わせを進めている。
- 情報産業協会のような組織が各県にあり、活発に活動しているところもある。そのような組織を上手く活用して、今回の検討を進めていきたい。

#### 【森下構成員】

- クラウドや、サイバー攻撃への対処、テレワークといったサービスについて、富士通株式会社は「お客様に提案するものは、自分たちでも使ってみる」という精神でいる。ICT ベンダー企業としての立場だけではなく、ユーザー企業としての立場でも議論に参加したい。

#### 【横山構成員】

- 様々な ICT ツールがあるが、それらに共通する課題は、いかに使いやすい、使いなじんだ ICT ツールを企業に対して提供できるかである。
- グローバルなインターネットのプラットフォームをいかに活用するかという観点で、本検討会における議論に参加していきたい。

#### 【吉崎構成員】

- 課題となるのは、地方・中小企業経営者の ICT に対する意識と、ベンダー企業とユーザー企業双方における ICT 人材の確保である。
- 本検討会では、広く満遍なく中小企業を対象とするのではなく、ICT 投資を戦略的に行うことへの意識が高い企業、ベンチャー精神にあふれる企業等、フロントランナーになるような企業に焦点を絞るのが良いと思う。

#### 【渡辺構成員】

- 「ICT 投資を増やす」ということよりも先に、「地方・中小企業の業態の変革」や「ワークスタイル変革」が先にある、そのためにどう ICT 投資をするのか、という順序であると思う。
- 地方・中小企業の現状を考えると、現状の業務をそのままクラウドサービスで行えるわけではない。業態を変える、ワークスタイルを変える必要があるが、地方・中小企業はそのことに対する意欲が少ない。変革に向けた機運が盛り上がるような議論を本検討会でできると良い。

#### 【村井座長】

- 日本のインターネットインフラは最先端であり、同様の水準である国は少ない。インターネットを活用する上での、前提となる準備はできている。
- マーケット分析の技術やクラウド等、低い投資コストで高い効果を生む技術が発展してきた。これまでは ICT 投資が上手くいかなかったかもしれないが、インフラが整備されて、新しい技術が普及したという前提を考えると、大きな期待がもてる。
- 投資というと、「ばらまいて上手くいかなかった」という反省がある。投資には質と量の議論が必要だ。
- インターネットはグローバルな環境だ。地域が直接世界と向かい合うことができる。このことがどれだけのインパクトを持っているのか、その可能性を誰もが自由に享受できるということをどのように考えるかが重要だ。

以上